

平成28年度(1月1日～12月31日)

事業報告書

公益財団法人 日本相撲協会

目 次

I. 法人の概況	
1. 設立年月日	1
2. 定款に定める目的	1
3. 定款に定める事業内容	1
4. 会員の状況	1
5. 主たる事務所の状況	1
6. 役員等に関する事項	2
7. 職員等に関する事項	3
II. 事業の状況	
A 公益目的事業	
1, 相撲競技の公開	
(1) 力士の相撲競技の公開実施	3
2, 人材の育成	
(1) 力士、行司、呼出、床山の養成	4
(2) 相撲教習所の維持運営	7
3, 指導普及活動	
(1) 青少年、学生に対する相撲の指導奨励	8
(2) 草津相撲研修道場の維持運営	14
4, 相撲記録の保存及び活用	
(1) 広報部の運営	15
(2) 相撲道に関する出版物の刊行	17
(3) 相撲博物館の維持運営	17
B 収益事業	
1, 貸館事業	
2, 広告・物販事業	
3, 一般外来診療	
C その他の事業	
1, 年寄、力士および行司等の福利厚生	19
2, その他の活動	20
III. 法人の運営・管理	
1, 役員会等に関する事項	
(1) 理事会	21
(2) 評議員会	22
(3) 横綱審議委員会	22
2, 維持員制度の維持運営	23
3, 国技館の維持運営	23
4, 暴力団等反社会的勢力の排除の徹底	23
5, 重要な契約に関する事項	24
6, 正味財産増減の状況並びに財産の状態の推移	24
IV. 法人の課題	24
V. 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実	24

事業報告

I. 法人の概況

1. 設立年月日

大正14年12月28日 財団法人 大日本相撲協会設立
昭和32年12月 1日 財団法人 日本相撲協会へ名称変更
平成26年 1月30日 公益財団法人 日本相撲協会へ移行

2. 定款に定める目的

この法人は、太古より五穀豊穰を祈り執り行われた神事(祭事)を起源とし、我が国固有の国技である相撲道の伝統と秩序を維持し継承発展させるために、本場所及び巡業の開催、これを担う人材の育成、相撲道の指導・普及、相撲記録の保存及び活用、国際親善を行うと共に、これらに必要な施設を維持、管理運営し、もって相撲文化の振興と国民の心身の向上に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1)本場所及び巡業の開催
- (2)相撲道の伝統と秩序を維持するために必要な人材の育成
- (3)相撲教習所の維持、管理運営
- (4)青少年、学生等に対する相撲道の指導普及
- (5)相撲記録の保存及び活用
- (6)国技館の維持、管理運営
- (7)相撲博物館の維持、管理運営
- (8)相撲診療所の維持、管理運営
- (9)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 会員の状況

(ア)平成28年度末の会員(維持員)の状況

	東京	大阪	名古屋	福岡	当期末 合計	増減
普通維持員	269名	263名	240名	216名	988名	31名
団体維持員	30名	37名	60名	34名	161名	▲6名
特別維持員	1名	0名	0名	0名	1名	0名
未加入	0名	0名	0名	0名	0名	▲25名
合計	300名	300名	300名	250名	1150名	0名

(イ)維持員の確認審査

6年毎に行う。

(ウ)維持費(寄付金)

東京地区 6ヶ年分 1名あたり 4,140,000円(平成28年～33年)
地方地区 6ヶ年分 1名あたり 1,300,000円(平成23年～28年)

5. 主たる事務所の状況

東京都墨田区横網一丁目3番28号

6. 役員等に関する事項

平成28年度末現在の常勤役員は、次の通りである。

役職	氏名	年寄名	担当職務・現職	常勤・非常勤
理事長	保志 信芳	八角	協会全般	常勤
理事	中山 浩一	尾 車	事業部長 全国維持員会会長 博物館運営委員	〃
〃	花田 光司	貴乃花	巡業部長	〃
〃	黒谷 昇	鏡 山	総合企画部長 指導普及部長 生活指導部長 監察委員長 危機管理部長 博物館運営委員	〃
〃	杉野森 正也	伊勢ヶ濱	地方場所部長(大阪)	〃
〃	日高 六男	二所ノ関	審判部長(ドーピング委員長) 新弟子検査担当	〃
〃	小林 秀昭	境 川	地方場所部長(福岡)	〃
〃	総田 清隆	春日野	広報部長 警備本部長 博物館運営委員	〃
〃	小岩井 昭和	出羽海	地方場所部長(名古屋)	〃
〃	平野 兼司	山 響	教習所長	〃
〃	山口 寿一	-	会社役員	非常勤
〃	今井 環	-	団体役員	〃
〃	高野 利雄	-	弁護士	〃
監事	岡部 観栄	-	興山寺住職	〃
〃	神山 敏夫	-	公認会計士	〃
〃	梶木 壽	-	弁護士	〃
副理事	志賀 太祐	玉ノ井	巡業部副部長 警備本部副部長 新弟子検査担当	常勤
〃	青木 康	芝田山	広報部副部長 巡業部副部長 警備本部副部長 新弟子検査担当	〃
〃	尾曾 武人	藤島	事業部副部長 審判部副部長(ドーピング防止副委員長) 博物館運営委員 新弟子検査担当	〃

会計監査人	東陽監査法人
-------	--------

7. 職員等に関する事項

平成28年度末現在の職員は、次の通りである。

職員数		前期末比較	平均年齢	平均勤続年数
男子	36名	+2名	46歳	14年
女子	10名	+1名	42歳	11年
合計	46名	+3名	45歳	13年

II. 事業の状況

A 公益目的事業

1, 相撲競技の公開

(1) 力士の相撲競技の公開実施

(ア) 本場所の実施

年6本場所制を採用し、次の通り相撲競技を公開実施した。

平成28年度本場所日程

場所別	番附発表	初日	千秋楽	開催場所
一月場所	12月24日	1月10日	1月24日	国技館
三月場所	2月29日	3月13日	3月27日	エディオンアリーナ大阪
五月場所	4月25日	5月8日	5月22日	国技館
七月場所	6月27日	7月10日	7月24日	愛知県体育館
九月場所	8月29日	9月11日	9月25日	国技館
十一月場所	10月31日	11月13日	11月27日	福岡国際センター

- ① 本場所相撲は、NHKのテレビ・ラジオで実況放送した。
- ② 相撲競技の勝負判定の公正を期すため、取組映像のVTRを使用した。
- ③ 入場者に対して取組表を無料配布し、観客へのサービスに努めた。
また、外国人観客に対して、英文の取組表を配布した。
- ④ 各国使節団、在日外交官等の相撲観覧には積極的に便宜を与え、諸外国との親善に寄与すると共に国技相撲の紹介に努めた。
- ⑤ 平成28年3月場所より、インターネットスポーツ専用チャンネル「スポナビライブ」にて、国内外に向けて本場所の全取組(序ノロから結びの取組)を実況配信した。
国内外の入場券需要に応えるため、オンライン発券システムやインターネットによる販売環境を整えた。また日本語版、英語版による入場券販売告知の充実に努めた。

(イ) 巡業の実施

本場所開催地以外の地方巡業による相撲競技を公開実施した。

① 巡業の実施状況は、次の通りである。

春巡業	夏巡業	秋巡業	冬巡業	合計
伊賀市	岐阜市	匝瑳市	大分市	
泉佐野市	福井市	千葉市	中津市	
岡崎市	立川市	入間市	直方市	

松本市	田村市	さいたま市	佐世保市	
館林市	胎内市	甲府市	大牟田市	
藤沢市	上越市	土浦市	天草市	
静岡市	白河市	豊橋市	熊本市	
つくば市	いわき市	金沢市	都城市	
川崎市	福島市	大阪市	佐賀市	
町田市	寒河江市	和歌山市	奄美市	
高崎市	仙台市	四日市市	宜野湾市	
川口市	盛岡市	京都市	宮古島市	
佐久市	秋田市	神戸市		
富山市	平川市	高知市		
	大崎市	松山市		
	函館市	徳島市		
	苫小牧市	高松市		
	札幌市	庄原市		
	平塚市	出雲市		
	東松山市	倉敷市		
	KITTE丸の内	広島市		
		山口市		
計14ヶ所	計21ヶ所	計22ヶ所	計12ヶ所	計69ヶ所

② 特別興行

2月9日(日)、フジテレビ主催の「日本大相撲トーナメント」を開催した。

③「大相撲beyond2020場所」開催

内閣官房推進本部の委託事業による「2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会」試行プロジェクトとして、平成28年10月4日「大相撲beyond2020場所」を開催し、外国人や障害者を主な観客として招待し、大相撲の魅力を国内外に発信した。

国際機関 :約458名(150カ国)

各省庁 158名

外資系企業他 :292名

留学生 :約758名

外国人子供 :62名

障害者 :約736名

協会員、関係者他 :472名 合計:2,936名

力士数十名と和装スタッフのお出迎えをはじめ、パンフレット・取組表の英語表記や英語の場内放送、障害者においては手話対応スタッフ、点字によるプログラムの配布など、新しい試みを実施した。

2, 人材の育成

(1) 力士、行司、呼出、床山の養成

(ア) 力士の養成

① 新弟子検査は、本場所毎に年6回、実施した。

・新弟子検査基準

身長167センチ以上、体重67キロ以上。但し、三月場所新弟子受検者で、中学校卒業見込者に限り、身長165センチ以上、体重65キロ以上とする。

- ・本年度は合計88名を力士として登録した。また、引退した力士は80名である。
- ② 新規登録力士は、相撲教習所で6ヶ月間教習するほか、各相撲部屋に配属して養成した。
- ③ 力士養成のため、各相撲部屋に相撲部屋維持費・稽古場経費を、また、幕下以下の力士養成のため、養成員養成費を支給した。
- ④ 十枚目以上の力士には給与・力士補助費・力士褒賞金を支給するほか、三役以上の力士には本場所特別手当を支給した。
 - ・横綱綱代は師匠に実費を支給した。
 - ・幕下以下の力士には本場所毎に場所手当を支給するほか、幕下以下奨励金を支給した。
- ⑤ 十枚目以上の力士を養成した師匠には養成奨励金を支給し、力士養成を奨励している。
- ⑥ 本場所毎に各段優勝者および三賞受賞者には賞状および賞金を支給した。
- ⑦ 力士数は、次の通りである。

11月場所力士数	
横綱	3名
大関	4名
三役	4名
幕内	31名
十枚目	28名
幕下	114名
三段目	194名
序二段	196名
序ノ口	48名
番附外	22名
計	644名

6場所平均力士数	
平成28年度	662名
前期末比較	+15名

(イ) 土俵を中心とした施策

本年度も土俵の充実を図り、土俵の美を実現し、国技相撲を維持発展させることを目標に、次の事項を実施した。

- ① 力士等に国技としての正しい相撲の在り方および相撲技術、土俵態度その他について常に研修、指導している。
- ② 「力士の心得」・「巡業の心得」・「協会員のあり方」を指針として、力士等の精神面の指導を行った。
- ③ 師匠会を東京本場所後に開催し、各本場所および本場所間の状況をもとに、力士等に対する指導監督の成果を検討し、必要事項を指示すると共に、是正事項に対する施策を協議する等、師匠会の活用を一層強化した。
- ④ 協会幹部は、力士会等に積極的に出席し、力士等の意向を聴取することに努めた。
- ⑤ 土俵の礼儀・作法・立ち合いについて指導した。
- ⑥ 支度部屋の監視や携帯電話の一時預かり等、故意による無気力相撲の再発防止に努めた。
- ⑦ 力士等の外部出演等については規制を行い、力士等が相撲に専念するよう努めた。

(ウ) 行司の養成

- ① 幕下以下行司の養成は、師匠である年寄が当たった。
- ② 行司として必要な実技指導等は、立行司ならびに行司会委員が当たった。
- ③ 行司全員に月給制による給与を支給し、場所ごとに装束補助費も支給した。
- ④ 平成28年12月末の行司数は次の通りである。

立 行 司	1名
三 役 行 司	4名
幕 内 行 司	8名
十 枚 目 行 司	10名
幕 下 行 司	7名
三 段 目 行 司	3名
序 二 段 行 司	3名
序 ノ ロ 行 司	5名
計	41名

行司の番附編成は、原則として毎年九月場所後の理事会にて、翌年度の階級順位を決めている。

(エ) 呼出の養成

- ① 幕下以下呼出の養成は、師匠である年寄が当たった。
- ② 呼出として必要な実技指導等は呼出会委員が当たった。
- ③ 呼出全員に月給制による給与を支給し、場所ごとに装束補助費も支給した。
- ④ 平成28年12月末の呼出数は次の通りである。

立 呼 出	1名
副 立 呼 出	0名
三 役 呼 出	4名
幕 内 呼 出	8名
十 枚 目 呼 出	11名
幕 下 呼 出	7名
三 段 目 呼 出	5名
序 二 段 呼 出	3名
序 ノ ロ 呼 出	5名
計	44名

呼出の番附編成は、原則として毎年九月場所後の理事会にて、翌年度の階級順位を決めている。

(オ) 床山の養成

- ① 3等床山以下の養成は、師匠である年寄が当たった。
- ② 床山として必要な実技指導等は、床山会委員が当たった。
- ③ 床山全員に月給制による給与を支給した。
- ④ 床山数は、定員50名であるが、力士数が12名以上で床山が所属していない相撲部屋に配属するため、臨時的に定員数を超えて採用している。
- ⑤ 平成28年12月末の人員は次の通りである。

特等床山	2名
1等床山	14名
2等床山	15名
3等床山	8名
4等床山	5名
5等床山	7名
計	51名

床山の等級は、原則として毎年九月場所後の理事会にて、翌年度の等級を決めている。

(2) 相撲教習所の維持運営

(ア) 相撲教習所の規模

相撲教習所は、本館に付設し、面積は702.03平方メートルである。

(イ) 教習内容

年6回本場所毎に力士として登録した新弟子に対し、実技指導及び教養講座を中心に6ヶ月の教習を実施した。

実技では相撲の基本を重点に指導し、教養講座では相撲史、社会、運動医学、修行心得、相撲甚句、コミュニケーション、国語(書道)を教習した。

また、新採用の行司、呼出、床山にも相撲史を教習した。

① 入所生

本年度の入所生は、次の通りである。

一月場所入所生	(350期生)	13名
三月場所入所生	(351期生)	45名
五月場所入所生	(352期生)	13名
七月場所入所生	(353期生)	3名
九月場所入所生	(354期生)	6名
十一月場所入所生	(355期生)	8名
合計		88名

② 卒業生

6ヶ月の教習を終わって卒業したものは、次の通りである。

平成28年度卒業生	卒業人数	卒業日
第346期生(平成27年 五月場所入所生)	12名	1月28日
第347期生(平成27年 七月場所入所生)	2名	1月28日
第348期生(平成27年 九月場所入所生)	4名	5月26日
第349期生(平成27年十一月場所入所生)	3名	5月26日
第350期生(平成28年 一月場所入所生)	8名	9月29日
第351期生(平成28年 三月場所入所生)	45名	9月29日
合計	74名	

入所数と卒業数の差は、入所日の変更や教習期間中の引退等があったためである。

卒業式は、地方場所の都合上、従来通り2期単位で行った。

③ 所長・講師・指導員

所長には、理事の職務分掌により、理事平野兼司(山響)が当たった。

講師は、下記の通りである。

所長、講師、指導員、及び担当講義等は次の通りである。

(授業科目) (講師)

相撲史 : 江戸東京博物館元館長 竹内誠氏

相撲甚句 : 国錦こと佐藤耕次郎氏

社会 : 学校法人日本放送協会学園理事 賀澤恵二氏

運動医学 : 筑波大学名誉教授 三井利夫氏

国語(書道) : 元横浜国立大学教授 渡部清氏

修行心得(話し方) : 一般財団法人NHK放送研修センター講師 岡部晃彦氏

反ドーピングの講義 : 日本医科大学千葉北総病院特任教授 南和文氏

上記の他、修行の心得として、年寄甲山が「力士の心得」と「土俵上の所作」の講義を行った。

実技指導には、年寄関ノ戸・稲川・不知火および現役力士では幕下・三段目が当たり、事務は年寄甲山が当たった。

④ 教習の効果

教習の目的は、新弟子に相撲の基本を習得させ、相撲道について理解を深めさせると共に、教養講座を通じて一般常識を養うことにある。本年度もその成果をあげている。

3. 指導普及活動

(1) 青少年、学生に対する相撲の指導奨励

相撲の指導奨励は指導普及部が行っている。指導普及部は学校、一般少年団体、会社等に指導普及部委員を派遣して相撲の指導に当たったほか、日本相撲連盟、学生相撲連盟、青年会議所等と連携を密にし、これ等の行う相撲競技等には積極的に協力し、国技館を無料で使用させたほか、寄附、寄贈を行い相撲の指導奨励に努めた。

(ア) 認定道場

文京針ヶ谷相撲クラブ・立川錬成館相撲道場・朝霞相撲練成道場・時津風心身道場・府中住吉相撲道場と緊密な連携をとって一般の相撲指導に当たらせている。

(イ) 相撲道場会員の進級試験および親善相撲大会

毎年夏期に行っている会員の進級試験と親善相撲大会は、8月6日に国技館で行った。

今回の参加者は419名で、内訳は次の通りである。

部別	申込者数	参加者数
少年部	312	298
中学生部	67	54
一般および有段者	75	67
合計	454	419

試合方法は幼稚園児、小学生、中学生、一般有段者毎に勝抜戦により行った。

また、各団体による勝抜戦を行った。

参加者全員に参加賞として手ぬぐいを配布し、父兄付添人を含む全員に昼食を支給した。各々1位より3位までに理事長杯、部長杯、カップ、楯、メダル、バスタオル、禪等を賞品として授与した。

(ウ) 全国都道府県中学生相撲選手権大会

本大会は、心・技・体の習得、相互の親睦と相撲の普及発展を図ることを目的として、すべての中学生に門戸を開き、日本相撲連盟の主催により開催されるものである。

第27回大会は、日本相撲協会と日本財団が協賛し、スポーツ庁と日本中学校体育連盟が後援して、8月7日国技館で開催された。

日本相撲協会は、本大会が永続し、意義あるものとするため、第1回大会時に優勝旗（団体優勝用持ち回り）を日本相撲連盟に寄贈しており、今大会では前大会に引き続き国技館の無料使用、宿泊費の負担、メダル・禪等の寄贈を行った。

(エ) 全国中学校相撲選手権大会

第46回全国中学校相撲選手権大会は、日本中学校体育連盟・日本相撲連盟・石川青森県教育委員会、津幡町教育委員会主催の下に8月20日および21日の両日、津幡運動公園体育館特設相撲場において開催された。

日本相撲協会は、後援者の立場から大会補助金を支出し、優勝旗・優勝楯・横綱模型・メダル・手ぬぐい等の寄贈を行った。

(オ) 相撲部屋の開放

夏期にスポーツ少年団、その他スポーツグループおよび小・中学校の部活動等への単位による団体の相撲練習に協力することを目的として、次の通り相撲部屋を開放した。

① 開放期間 8月 1日～8月 7日

② 参加人員 延1, 113名

③ 開放部屋 9部屋

④ 相撲の指導方法

要請により指導員（年寄）、実技指導員（幕下、三段目力士）がこれに協力した。

⑤ 協会が準備した物

稽古禪 200本 一部希望者には中古禪を寄贈した。

手ぬぐい 404本

⑥ 検討会

最終日、各部屋において成果を検討する会を行った。

(カ) わんぱく相撲の指導奨励

第32回わんぱく相撲全国大会は、日本相撲協会・東京青年会議所が共催し、後援に

スポーツ庁・東京都・警察庁・日本商工会議所・日本相撲連盟・日本放送協会・日本青年会議所・読売新聞社・日本PTA全国協議会、墨田区、墨田区観光協会が当たり、7月31日国技館で開催した。大会には経費分担金13,000,000円の支出、国技館の無料使用のほか、行司・呼出等を協力出場させた。

第32回わんぱく相撲全国大会の状況は、次の通りである。

出場チーム数	131チーム
出場選手数	393名
宿泊受入部屋数	39部屋
宿泊人員数	520名(監督・引率者を含む)
一般観覧者数	約10,000名

(キ)少年相撲教室への指導員派遣

少年に正しい相撲の在り方を指導するため、会場地の市町村教育委員会が主催し、日本相撲協会は日本相撲連盟とこれを後援し、指導者派遣事業と位置づけて全面的に協力した。

本年度は、6月11日より10月27日まで次の通り開催され、指導普及部委員主任、年寄および力士を派遣し指導に当たった。

開催地

和歌山県広川町
沖縄県北大東村
石川県珠洲市
北海道北広島市
神奈川県川崎市
広島県広島市

(ク)全国小学校・中学校・高等学校相撲指導者および社会体育相撲指導者研修会

本研修会は小学生、中学生、高等学校、大学及び社会体育の指導者に対し、相撲の専門的な知識と技術の充実を図り、その資質向上と相撲の普及振興に寄与するために、スポーツ庁の後援を受け、日本相撲連盟と共催し、8月23日から8月26日まで講義と実技を日本相撲協会相撲教習所および日本相撲協会草津相撲研修道場で行った。

参加人員は次の通りである。

(公財)日本相撲協会(鏡山・山科・甲山・不知火・力士指導員等)	7名
(公財)日本相撲連盟	3名
研修者	16名
<hr/>	
合計	26名

費用負担は次の通りである。

- ① 相撲教習所での講習終了までの費用(旅費・宿泊代を含む)は、日本相撲連盟が負担した。ただし、夕食費は、日本相撲協会が負担した。
東京より草津までの往復の費用および研修道場での費用は、日本相撲協会が負担した。
- ② 看板代・写真代等の物件費は、日本相撲連盟が負担した。
- ③ 研修参加者には、日本相撲協会より揮を支給した。

(ケ) 寄附・寄贈

各地で行われる相撲大会等には引き続き積極的に協力すると共に、寄附・寄贈を行い、相撲の奨励と普及を図った。

あわせて、指導普及部が制作した小冊子「大相撲入門編」を、小中学生の相撲大会開催時を中心に寄贈した。

寄附・寄贈した金品および寄附・寄贈先は次の通りである。

① 寄附先および寄附金

第95回東日本学生相撲選手権大会	25,000円(広告賛助)
第90回記念西日本学生相撲選手権大会	20,000円(〃)
第41回全国学生相撲個人体重別選手権大会	
第94回全国学生相撲選手権大会	50,000円(〃)
全国高校相撲年鑑第61号	20,000円(〃)
計	115,000円

② 寄 贈 品

優勝カップ	2個(進級試験)
優勝楯	7個(進級試験、全国中学校相撲選手権大会、理事長杯争奪親善相撲大会)
褌	189本
手ぬぐい	22,195本
バスタオル	5本
寄贈メダル	2,009個 (寄贈品合計 8,716,697円)

③ 寄 贈 先

第6回こども未来館相撲大会
第70回東区少年相撲大会
第21回ちびっこ相撲泉南場所
第67回全国高等学校相撲新人選手権大会
第9回鎮守の森こども相撲大会
第5回大鵬杯争奪相撲大会
第18回少年相撲柏大会
第38回桜ずもう
第56回全国大学選抜相撲宇佐大会
第57回神戸市内中学校相撲大会
第29回三重県中学校春季相撲選手権大会
第40回三重県少年相撲親善大会
第67回東日本学生相撲新人選手権大会
第66回西日本学生相撲新人選手権大会
第40回桜小学校区子供相撲大会
第54回全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会
第35回阿倍野区小学生相撲大会

平成28年度茨城農芸学院相撲大会
第64回関東高等学校相撲大会
大相撲宮ヶ谷場所
第29回わんぱく相撲双葉山杯大会
第90回西日本学生相撲選手権大会
百万石まつり奉賛第46回親善少年相撲金沢大会
第95回東日本学生相撲選手権大会
第34回草加市青少年相撲大会
平成28年度平井小学校6学年PTAお相撲大会
第28回京都府アマチュア相撲選手権大会
第16回福岡地区保育園相撲大会
第20回長野県小学生相撲選手権大会
第59回市川市小学校相撲大会
第42回七ヶ町相撲大会
第47回鳥羽志摩中学校相撲大会
第47回鳥羽市小学校相撲大会
第25回鈴鹿市少年相撲大会
第45回西日本実業団相撲選手権大会
ボーイスカウト名古屋西部地区こども相撲大会
第69回東北高等学校相撲選手権大会
第26回福岡地区幼児相撲大会
平成28年度こども園ゆりかごお相撲大会
第54回東日本実業団相撲選手権大会
第50回日栄小学校校内すもう大会
第76回西日本選抜学生相撲大会
第11回葛城市ワンパク相撲大会
第31回全十勝小学生対抗相撲選手権大会
平成28年度名古屋場所相撲講座
第18回千代の富士杯争奪小中学生相撲大会
第2回鳥飼八幡宮なごし祭奉納相撲大会
平成28年度大楠天満宮奉納子供相撲大会
第94回全国高等学校相撲選手権大会
第41回相撲部屋開放
平成28年子ども相撲大会
平成28年学童相撲大会
2016夏休み相撲健康体操
第38回中部日本選抜中学生相撲大会
第43回東日本学生相撲個人体重別選手権大会
第1回豊ノ島杯富山県少年少女相撲大会
第427回大國魂神社四ヶ町八朔奉納相撲大会
第40回関東中学校相撲大会
第61回進級試験及び親善相撲大会
第12回旭富士杯争奪青森県下小・中学校相撲大会

第27回全国都道府県中学生相撲選手権
平成28年加治川少年相撲大会
第27回合志市ワンパクすもう大会
第4回嘉風相撲大会
平成28年度お盆供養小湊相撲大会
平成28年度六日市場浅間神社奉納子供相撲大会
第65回選抜高校相撲十和田大会
平成28年度市民体育祭夏休み草加っ子相撲
平成28年度 指導者研修会
第46回全国中学校相撲選手権大会
第46回八幡宮少年相撲大会
第55回全国教職員相撲選手権大会
第49回関西相撲選手権大会
第51回関東総合相撲上尾大会
第22回飯盛神社こども相撲大会
第19回一支國幼児相撲大会
第25回西島杯子ども相撲大会
第10回阿蘇北宮神社少年相撲大会
第34回埼玉県ジュニア相撲選手権大会
第10回埼玉県中学生相撲選手権大会
第59回選抜高校相撲宇佐大会
平成28年度斐川町相撲大会
第35回若宮初声っ子相撲大会
第32回有喜地区子ども相撲大会
第42回東広島市こども相撲大会
第1回郡山少年相撲大会
諏訪大社上社 十五夜祭奉納相撲
第58回全日本実業団相撲選手権大会
第24回成田市小学生相撲大会
第16回小糸少年相撲大会
第57回札幌市民体育大会
第33回少年相撲大会
第35回志賀町学童新人大会
第30回福岡市民総合スポーツ大会／ 第54回福岡地区青少年相撲大会
第10回前田山記念すもう大会
第38回長野市小学生相撲選手権大会
第1回ちちぶはんじょう場所
第24回東北高等学校相撲選抜大会
第30回千葉市ちびっ子相撲チャンピオン大会
第13回全国少年相撲
第26回ワンパク相撲大会
第12回玉ノ井部屋相撲大会・玉ノ井杯・相撲教室
第31回九州・山口少年相撲大会

第3回野見宿禰杯鎮守の森こども相撲大会
第111回奄美市笠利町招魂祭相撲大会
平成28年度布鎌惣社水神社秋季大祭奉納相撲
第1回大阪府中学生招待相撲大会
第44回大山町ちびっこ相撲大会
第94回台覧記念相撲大会
京都市保育連盟こどもおすもう大会八瀬場所
第10代横綱雲龍顕彰記念 第29回少年相撲大会
第5回中間市小学生相撲大会
第94回全国学生相撲選手権大会
第30回草加市学校対抗相撲大会
第3回上越小学校親善相撲大会
第165回野村乙亥大相撲
第1回理事長杯争奪親善相撲大会
第65回全日本相撲選手権大会
第29回全日本小学生相撲優勝大会
第10回関東高等学校選抜相撲大会
第37回飛龍旗少年相撲大会
第5回君津市民ふれあい少年相撲大会
第7回新富町長杯九州各県対抗少年相撲大会

(コ)巡業開催地での地元青少年に対する相撲の指導

各巡業先で、巡業部は幕内力士による地元青少年への相撲の稽古を実施した。
また、参加者に禪を寄贈した。

(サ)国技館の開放使用

相撲大会等に国技館を無料で開放使用させており、開放状況は次の通りである。

- ① 第95回東日本学生相撲選手権大会
- ② 第32回わんぱく相撲全国大会
- ③ 第61回進級試験親善相撲大会
- ④ 第27回全国都道府県中学生相撲選手権大会
- ⑤ 明治神宮奉納第75回全日本力士選士権大会
- ⑥ 第13回全国少年相撲選手権大会
- ⑦ 第94回全国学生相撲選手権大会
- ⑧ 第65回全日本相撲選手権大会

(国技館無料開放分の館使用料相当額 合計41,075,000円)

※自己消費分(わんぱく相撲・進級試験等)11,100,000円を含む

(2)草津相撲研修道場の維持運営

草津相撲研修道場は、当協会関係者の保健・保養等の福利厚生に利用している他
相撲部屋合宿・負傷力士のリハビリの場として利用している。

また、施設を有効活用するために、青少年・学生に対する相撲指導員の相撲研修、青少年・

学生の相撲練習の場として使用している。

4, 相撲記録の保存及び活用

(1) 広報部の運営

(ア) 報道機関はもとより、一般層への情報提供に努め、広報全般の機能向上を図った。

(イ) 協会員の外部への派遣・出演を積極的に実現させ、大相撲に関する情報の周知を図りファン層拡大のため、さまざまな企画を実施した。主な企画は以下の通り。

① 1月、5月、9月の本場所開催に際し、普及および広報活動の一環として「相撲塾」を開催した。

本場所	実施日	内容	参加人数
一月場所	1月9日	立田川親方・行司銀治郎によるトークショー	260人
五月場所	5月7日	大島親方・西岩親方・佐々木一郎トークショー	260人
九月場所	9月10日	大山親方相撲教室	250人

計770人
(H27:710人)

② 日本相撲協会公式ツイッター(@sumokyokai)を通じ、大相撲に関する様々な情報を発信。フォロワー数(登録者数)は、この一年間で7万人増え、約26万人に達した。

③ 日本相撲協会公式LINE(@sumokyokai:H25・4月開設)では、大相撲に関する親しみやすい情報を発信。若年層を中心に登録者約14.7万人(H27年約10.5万人)に達し、内本場所来場者には趣向をこらしたプレゼント企画を実施した。

④ 日本相撲協会公式キャラクター「ハッキョイ! せきトリくん」プロジェクト企画を積極的に押し進め、着ぐるみ「ひよの山・赤鷲」の本場所企画への出演や他イベントへの派遣を実施した。特に熊本地震の支援活動においては、現地に派遣し対応を行った。活動日数は117日(H27:116日)。また、関連グッズのネット販売の強化と様々な企画を立案し実施した。

⑤ 日本相撲協会公認ソーシャルゲーム「大相撲カード決戦」(SNS)配信については、内容を充実させ、一般的に短期サービスが多いソーシャルゲーム業界において、高いアクティブ率と継続率を有し、長期サービスを達成。年齢層も10~30代の割合が上昇し、ファンの若年層拡大に努めた。
登録者のニーズに合わせ、バージョンアップを図った。

(ウ) 記録映像の制作

国内・国外からの映像使用依頼に対し、映像の制作およびダビング作業を行った。また、引き続きダイジェスト版の制作を行った。

① 博物館に協力しDVDを提供した。

② 相撲普及に努め、相撲協会ホームページおよび携帯サイトと連携してYouTubeに各場所のPR映像を配信した。

③ その他、制作した映像は次の通りである。

一月、三月、五月、九月場所のハイライト(各場所維持員会用)

七月、十一月ハイライト(本場所取組後上映用)、ロシア向けDVD

(エ) 記録映像のハイビジョン映像化

保存映像の改修等ハイビジョン映像切替を引き続き行い、映像の内容調査を実施し、内容の充実を図った。

① 保存映像をハイビジョンに変換した映像は次の通りである。

16mm・昭和36年九月、十一月、昭和37年九月、昭和38年三月、五月、九月場所

16mm・昭和40年三月場所

16mm・昭和41年一月、三月、五月、七月、十一月場所

16mm・昭和42年五月場所

平成27年度もフィルム劣化の進行が早く変換作業が出来なくなることが予想される為、劣化速度に対応した変換作業を行った。

② 本年度、記録映像の内容調査を実施したものは次の通りである。

昭和36年九月、十一月、昭和37年九月、昭和38年三月、十一月場所

昭和39年十一月、昭和40年一月、三月、昭和41年一月、三月、七月場所

昭和42年五月、昭和43年九月、昭和44年十一月場所の本検査

③ PCに調査内容を入力したものは次の通りである。

DVCHD 平成26年十一月場所～平成27年九月場所

(以上は編集時に入力したデータの修正を行った)

昭和36年十一月場所、昭和37年一月～七月場所(16mmフィルム分)

(オ) 記録映像のデジタルアーカイブ

27年度より映像のアーカイブ化をスタート

ファイルを管理することにより映像の破損、劣化をなくすことが出来る。

(カ) 協会員の肖像権

「協会員の肖像権に関する規定」により、力士その他協会員の肖像権を協会が管理・運営・保全を目的に運営し、業務にあたった。また、協会員の広告出演契約および名称・肖像を利用した商品化契約や出版物に関し、基本概要を整備した。

(キ) インターネットによる情報提供

大相撲関連情報をインターネットによる公式ホームページにて情報公開し、本場所関連情報の周知拡大のためページビューの増加を図った。

(ク) 各種申請に関して

国内外メディアよりの取材、出演、映像使用依頼申請等に応じ、迅速に対応した。

本年度の各種申請書の取扱い状況は、次の通りである。

申込件数 2, 723件

受理承認件数 2, 657件

《内 権料発生件数 取組映像使用、ダビング料、画像・写真貸出件数 1, 143件》

不承認件数 66件

(ケ)その他広報活動

大相撲への相互理解と親交を深めるため、報道各社、関係各社参加のもと、国技館本土俵で「理事長杯争奪親善相撲大会」を開催した(12月5日)。参加団体23社、参加総数86人。

(2)相撲道に関する出版物の刊行

(ア)ベースボールマガジン社による日本相撲協会機関誌「相撲」を刊行した。

本年度の刊行状況は以下の通りである。

*年間実売部数:150, 489部(前年度:160, 743部 10, 254部減)

月号	発売日	定価	実売部数	月号	発売日	定価	実売部数
1月号	12月28日	1,050	14,871	7月号	6月30日	1,000	12,157
2月号	1月28日	930	13,369	8月号	7月28日	930	10,462
3月号	3月3日	1,000	12,767	9月号	9月1日	1,000	12,314
4月号	3月31日	980	11,014	10月号	9月29日	930	11,913
5月号	4月28日	1,050	15,924	11月号	11月3日	1,000	12,134
6月号	5月26日	930	10,764	12月号	12月1日	1,030	12,800

(イ)本場所開催に伴い、番附表に基づいた力士紹介や本場所企画等を掲載した本場所用パンフレットを作成し刊行した。本年度は、以下の通りである。

平成28年度は合計:205, 205部(前年度:191, 219部 13, 986部増)

本場所	発行部数	本場所	発行部数
一月場所	43,235	七月場所	21,445
三月場所	43,940	九月場所	41,700
五月場所	42,995	十一月場所	11,890

(ウ)外国人を対象とした英文パンフレット「The SUMO」、和文「大相撲」を販売した。

本年の販売部数は英文パンフレット「The SUMO」:4, 481部

和文パンフレット「大相撲」:1, 999部

(エ)11月、大相撲普及および広報活動の一環として大相撲カレンダー(7枚綴り)を作製し、販売した。好評につき完売。制作部数は467, 200部(H27年45. 9万部)と増加。

一般販売の利便性を高めることと更なる販路拡大のため、大手コンビニチェーン(店舗・ネット)での販売を開始した。

(3)相撲博物館の維持運営

(ア)相撲博物館の規模

相撲博物館は本館に付設し、面積は1階が388.9平方メートル、地下部分が196.7平方メートル、合計585.6平方メートルである。

(イ)庶務の状況

相撲の起源や歴史の究明に当たったほか、次の事項を行った。

① 電話・手紙などによる相撲関係の質問の回答を行った。

② 十両昇進力士・改名力士に対し、手形の寄贈を依頼し、資料として保存するように努めた。

- ③ 日本相撲協会のホームページ上の相撲博物館のページで展示紹介を行った。
- ④ 増加する資料に対応するため、収蔵庫・書庫の整理をさらに進め、資料の保存・管理態勢の強化を行った。
- ⑤ 常ノ花寛市書「丹心照萬古」など9点を修復した。

(ウ)資料の展示

① 館内展示室での資料展示

館内展示室に次の通り資料を展示し、無料公開した。

なお、今年度の入場者は74,044人

(うち外国人入場者13,823人)であり、団体(30名以上)入場者は38組2,145人である。

展示月	展示テーマ	展示点数
1月～2月	五十五代横綱北の湖敏満を偲んで	114点
3月～4月	桜と大相撲～相撲博物館でお花見～	79点
5月～6月	大相撲の賞～勝盾を讃えて～	140点
7月～8月	力士の作品展	75点
9月～10月	抱え相撲の世界	95点
11月～12月	第7回 新収資料展	113点

展示室の常設モニターで、展示内容に関連するものなど、下記の映像を放映した。

放映作品	放映期間
大相撲名力士風雲録 創刊号 北の湖	平成27年12月24日～平成28年2月19日
明治の相撲	2月23日～ 4月15日
パンアメリカン航空賞	4月19日～ 6月17日
名取組選集若の里忍 旭天鵬勝	6月21日～ 8月10日
大相撲名力士風雲録 第2号 千代の富士	8月18日～10月21日
平成28年9月場所ハイライト	10月25日～12月26日

② 館外貸出展示

博物館資料の貸出を次のように行った。

別紙のとおり

③ 資料の閲覧・掲載・撮影

相撲研究者、愛好家、報道関係者等の資料の閲覧・掲載・撮影に協力した。資料の閲覧は63件である。資料の掲載・撮影は広報部の許可を受けたものに限り、画像データ・ポジ・ネガフィルムの貸出は広報部が行い、撮影はカメラによる直接撮影のみとした。掲載・撮影は72件である。

④ 資料の収集

力士・年寄・相撲愛好家・相撲研究者等より資料の寄贈を受けた。

寄贈件数は355件である。

⑤ 保存資料

12月末現在で相撲博物館に保存されている資料は、次の通りである。

歴史資料	17, 241点
歴史図書	7, 133点
歴史写真	7, 262点
計	31, 636点

C その他の事業

1, 年寄、力士および行司等の福利厚生

(ア) 相撲診療所

相撲診療所は国技館地下1階に付設し、面積は715. 2平方メートルである。

相撲診療所は協会員とその家族ならびに一般患者の診療に当たるほか、東京本場所中は観客や場所関連従事者などの診療を行った。

日本相撲協会健康保険組合と連携して、力士は2月、8月の年2回、他の職員は年1回の定期健康診断を行い、病気の早期発見、早期治療を目的として協会員の健康管理に努めた。また、協会員全員とその家族を対象として、インフルエンザの予防ワクチン接種を行った。

力士を対象として重点的に実施した診療

実施内容	対象者
心臓の精密検査(心臓超音波)	平成28年度 新弟子入門検査合格者全員 心臓の継続的精密検査管理力士
B型肝炎予防ワクチン	平成28年度 新弟子入門検査合格者全員 B型肝炎抗体陰性力士
破傷風予防ワクチン	平成28年度 新弟子入門検査合格者全員
麻疹予防ワクチン	平成28年度 新弟子入門検査合格者の中で抗体陰性者

平成28年1月1日から平成28年12月31日の外来診療受診者数

	力士	力士以外の協会員	協会員家族	一般	合計
受診者数	3,602	2,187	177	1,472	7,438

定期健康診断受診者数

		力士	年寄	その他の協会員
受診者数	2月	586	46	174
	8月	579		

日本相撲協会健康保険組合の被保険者および扶養家族の診療費は、福利厚生の一環として、徴収はしていない。

① 業務上の治療費

力士等が稽古、本場所を通じて土俵上で負った業務上の怪我等については個人負担30%、残額の全てを協会が負担した。

② 定期健康診断

協会員全員の健康管理のため定期健康診断を行った。

(イ) 力士養成員については、全員を健康保険および厚生年金保険に加入させ、保険料全額を負担した。

(ウ) 助成金

親睦団体である年寄会・力士会・行司会・若者頭会・世話人会・呼出会・床山会・さくらの会(職員等)にそれぞれ助成金を支出した。

2, その他の活動

(ア) 心身障害児のための福祉大相撲

2月11日に国技館で行われたNHK厚生文化事業団主催の「第49回NHK福祉大相撲」を後援した。これは、NHKより全国に放送された。

(イ) 寄附金

内訳は次の通りである。

熊本県	熊本地震支援金	10,000,000円
伊勢神宮	玉串料	200,000円
明治神宮	玉串料	800,000円
住吉大社(大阪)	玉串料	150,000円
住吉神社(福岡)	玉串料	100,000円
慶應義塾大学	スポーツ医学研究センター	3,000,000円
自治医科大学	肝炎研究寄附金	1,500,000円
合計		15,750,000円

(ウ) 復興慰問

春巡業の途中、阪神淡路大震災二十年節目として横綱らがボランティアで献花式を行った。また、ひたちなか市では、東日本大震災復興を祈願し、土俵入を行った。

(エ) 相撲健康体操の普及事業

① 8月の夏休み期間中に国技館で第9回「夏休み!!相撲健康体操」を年寄、幕下指導員とともに実施。15日間で約1,800名が参加した。

(オ) 「大相撲伝」「大相撲入門編」の配布

大相撲のもつ文化的側面やその様式美に関する認識を周知するため、また、子どもから大人まで理解出来るように、漫画形式の冊子として「大相撲伝」と「大相撲入門編」を作成し、一般に配布した。

Ⅲ. 法人の運営・管理

1. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開会年月日	主な決議事項
平成28年1月19日	平成28年1月15日付で評議員を辞任した平野兼司の年寄山響襲名の件
平成28年1月21日	元大道こと中西健二による年寄小野川の一時的襲名の件
平成28年1月22日	元土佐豊こと森下祐哉による年寄安治川の一時的襲名の件
平成28年1月28日	床山床貴こと篠原秀樹の処遇の件
平成28年2月1日	三段目附出し承認の件
平成28年3月11日	評議員会の議題議案の件 副理事決定の件 事業報告・決算の件
平成28年3月20日	停年退職に伴う功労金支給の件 監査法人の平成28年度報酬の件 内閣府提出書類の件
平成28年3月28日	理事長選任の件
平成28年3月29日	外部理事候補推薦の件
平成28年3月30日	役員待遇委員・委員・主任の銓衡の件 外部理事との責任限定契約締結の件 年寄資格審査委員会委員選任の件
平成28年4月8日	年寄常盤山こと金尾隆による千賀ノ浦部屋継承の件
平成28年5月26日	監事推薦の件
平成28年7月17日	責任限定契約締結の件 評議員候補者推薦の件 評議員会招集の件
平成28年8月2日	年寄佐ノ山こと須藤龍二による九重部屋継承承認の件
平成28年8月25日	力士時天空こと時天空慶晃引退に伴う年寄間垣襲名の件
平成28年9月12日	協会の懲戒処分の件

開会年月日	主な決議事項
平成28年9月29日	行司・呼出・床山番附編成の件 元九重こと秋元貢死亡退職に伴う功労金支給の件 評議員会招集の件
平成28年10月12日	協会員懲戒処分 の件
平成28年11月20日	「年寄名跡及び相撲部屋の新設・継承規程」一部変更の件 「人材育成業務委託契約書」一部変更の件 主事選任の件
平成28年12月26日	平成29年度事業計画承認の件 平成29年度予算書類承認の件

(2) 評議員会

開会年月日	主な決議事項
平成28年1月21日	評議員の退任について
平成28年1月29日	評議員予定候補者の選任等
平成28年3月28日	平成27年度事業報告・決算の件 年寄理事選任決議の件
平成28年3月29日	外部理事選任の件 補欠評議員選任の件
平成28年6月13日	監事選任の件
平成28年8月9日	評議員1名選任の件
平成28年10月20日	定款一部変更の件

(3) 横綱審議委員会

横綱審議委員会は、本場所千秋楽翌日に開会した。

また、横綱審議委員会による稽古総見の一般公開を4月29日に行った。

2. 維持員制度の維持運営

(ア) 維持員会会長

全国維持員会会長は理事中山浩一(尾車)が担当した。

(イ)維持員制度のさらなる充実について

維持員の活動をより一層推進すべく「維持員との集い」と称し、会合および懇親会を開催した。

実施地区	実施日	実施内容
大阪	平成28年3月1日	《会合》 維持員規定の改定について 維持員席の利用について 《懇親会》 意見交換会
東京	平成28年4月26日	《会合》 維持員規定の改定について 《懇親会》意見交換会
名古屋	平成28年6月28日	《会合》 維持員規定の改定について 確認審査について 《懇親会》 意見交換会
福岡	平成28年10月31日	《会合》 維持員席の利用について 確認審査について 《懇親会》 意見交換会

3. 国技館の維持運営

(ア)国技館の建物改修に対する備え

国技館の老朽化に対しては、全面建替えを踏まえて、これらの減価償却費相当額を特定資産減価償却引当資産として実額積立を実施した。

なお、当面の改修工事に備え、国技館改修基金として必要な額の積立を実施した。

(イ)国技館は場内を禁煙とし、東京本場所に使用するほか、支障のない範囲で相撲大会およびその他に、無料又は有料にて開放使用させた。

本年度の館貸状況は次の通りである。(日数は延日数)

区分	有料		無料		合計	
	件数	日数	件数	日数	件数	日数
アリーナ	55	129	11	22	66	151
大広間	30	66	4	5	34	71
合計	85	195	15	27	100	222

※「無料」には、NHK福祉大相撲、全日本力士選士権大会、進級試験を含む。

(ウ)FMラジオによる実況中継

国技館内にラジオ放送設備を設け、館内の観客を対象にラジオによる実況中継を行った。

4. 暴力団等反社会的勢力の排除の徹底

「暴力団等排除宣言」に基づき、協会と取引をしている各業者から、暴力団等反社会的勢力ではないことや関係がないこと等の表明・確約の提出を受け、暴力団等の排除を推進した。さらに東京都暴力団排除条例施行に伴う「暴力団を恐れない、暴力団に金を出さない、暴力団を利用しない、暴力団と交際しない」等の理解を図るため資料を配付し、暴力団等排除の恒久化を進めた。

5. 重要な契約に関する事項

日本放送協会と本場所の放送権料に関する契約を締結した。

6. 正味財産増減の状況並びに財産の状態の推移

(単位:百万円)

事業年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度			平成27年度	平成28年度
			1月1日～29日	1月30日～12月31日	計		
経常収益	9,970	10,777	1,648	9,015	10,664	11,460	12,016
経常費用	11,042	10,624	895	10,344	11,240	11,108	11,390
評価損益	-	-	-	501	501	▲106	14
経常外収益	1	45	0	0	0	0	0
経常外費用	3	318	0	2	2	33	1
正味財産増減額	▲1,075	▲121	752	▲830	▲78	213	638
資産合計	42,970	42,299	42,779	42,897	//	43,572	43,953
負債合計	6,459	5,909	5,636	6,585	//	7,049	6,792
正味財産	36,511	36,390	37,143	36,312	//	36,523	37,161

注-1) 平成28年度の数値は、理事会承認前の「見込み額」であり、最終的に承認される数値と差異が発生することがありうる。

IV. 法人の課題

1. 相撲文化の普及

土俵の充実こそが、相撲文化普及のための原点ととらえ、力士が相撲に集中できる環境を整えた。また、巡業開催地の増加、新規開催地の設定により、相撲文化の普及に努めた。例年通り、各地で開催される子供相撲を中心とした相撲大会への支援を積極的に行った。

2. 事業収支の安定化

相撲文化の普及および来場客への様々なイベントやサービス、広報宣伝を通して、入場券販売促進に努めた結果、本場所開催90日のうち88日が満員御礼となった。一方で、各種費用の適正化を図ることにより、協会全体の最終利益が前年比200%を超え、余剰利益による先行投資が可能となった。

3. 国技館の維持管理

老朽化している国技館を維持管理するための大規模改修工事について、改めて実施事項の調査を実施し、工事の適正化を図った。

4. 法令順守の徹底

公益法人として、より法令に遵守し適正な運営を図るため、随時、諸規程・規則の見直しを行った。

5. 内部統制の強化

執行部に地方場所担当の親方を配置し、地方場所も含めた組織全体の課題解決の早期化を図った。また、4月25日には「各種不法事案排除の総合的対策について」(違法薬物・賭博・

暴力団排除)協会員研修会を行い、元警視庁組織犯罪対策部長の頼本和也氏が講演を行った。その際には東京オリンピック・パラリンピック担当の遠藤利明大臣や、スポーツ庁の鈴木大地長官が挨拶を行った。

6. 他、公益法人としての活動

力士や親方による熊本地震や糸魚川大規模火災に対する募金活動を行い、熊本市には6,561,485円を、糸魚川市には292,712円を寄附した。また、協会の収益からも、熊本市に義援金1千万円、糸魚川市に支援金1百万円を寄附した。年末には新規部門として社会貢献部を創設した。今後も相撲を通じた様々な社会貢献の取り組みを検討し、実施する。地域密着のための活動としては、4月30日、5月1日の「両国にぎわい祭り」開催の際、国技館を開放し、バックステージツアーなどのイベントを開催、好評を得た。

V. 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実 該当事項なし

別紙

貸出先	展覧会名	開催期間	主な貸出資料	点数
秩父宮記念スポーツ博物館	常設展(通年)	1月1日～12月31日	化粧廻し・番付・人形	14
葛城市相撲館	常設展(通年)	1月1日～12月31日	笠置山関係資料・番付	17
雲龍の館	常設展(通年)	1月1日～12月31日	弓取り力士化粧廻し・明荷	2
横綱柏戸記念館	常設展(通年)	1月1日～12月31日	柏戸剛使用の雲龍型横綱	6
上田情報ライブラリー	地域の文化を支えた人々 Part7	5月1日～ 平成30年4月30日	昭和6年春場所番付(データ提供)	2
回向院	回向院相撲浮世絵と清長展	5月14日～ 5月15日	江戸大相撲生写之図	2
深川江戸資料館	相撲の魅力展	7月2日～ 7月18日	巖雄謙治の手形(データ提供)	1
花巻市総合文化財センター	花巻出身力士・錦木塚五郎展	7月12日～ 8月28日	錦木塚右衛門 (三代歌川豊国画、データ提供)	6
岡谷蚕糸博物館	ハッキョイ!シルク	7月27日～10月31日	北の湖敏満使用の着物	36
青森市中世の館	横綱隆の里とその弟子たち	9月9日～ 9月30日	隆の里俊英横綱姿(データ提供)	8
岩手県立博物館	スポーツ博覧会いわて	9月22日～11月27日	27代木村庄之助の軍配	5